

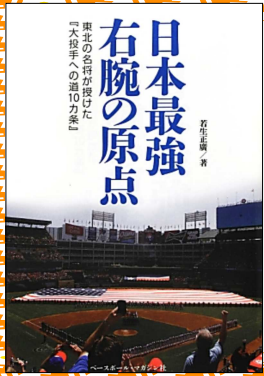


図書館だより



秋の気配もすっかり遠のき、いよいよ冬将軍が到来しました。寒さに凍えるなか、期末試験も終わり、ほっと一息の皆さんかと思いますが、今回も先生方から素敵な本をたくさん紹介いただきましたので掲載させていただきます。読書週間企画第3弾は、第2学年を担当される先生方からの推薦図書です。「なるほど」とためになる本から、読んだら爆笑必須！の本まで盛りだくさんです。

そのほか、第1職員室前と、保健室前、そして図書館前の掲示板には、図書委員会メンバーから48冊の推薦図書が掲示されています。この図書館だよりと併せて、そちらもどうぞご覧ください。

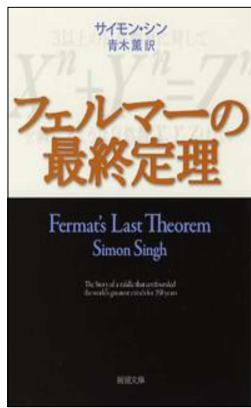


神永 豊 『日本最強 右腕の原点』 若生正廣著 ベースボールマガジン

プロ野球界の中でも、イケメンであり大リーグ投手でもある「ダルビッシュ有」の育成秘話です。東北高校時代の若生監督がどのように大阪の地からスカウトし、その後どう育て上げたかが書かれています。P70には本校野球部監督の金沢監督の話も載っています。是非読んでください。



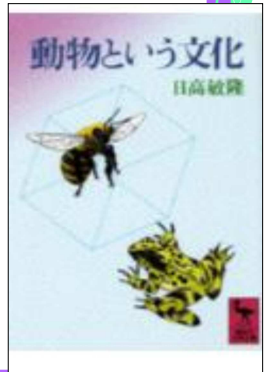
石川 圭 『フェルマーの最終定理』 サイモン・シン著 新潮社



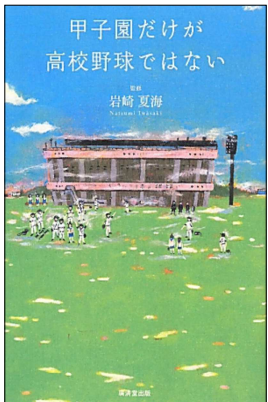
不朽の名著。数学界最大の難問「フェルマーの最終定理」完全証明までのドラマを描いた感動の数学ノンフィクション。数学の素晴らしさ、楽しさ、美しさ、奥深さが全てつまっています。最後まで読み終わると数学の偏差値が5上がるという都市伝説も?!

杉山 和則 『動物という文化』 日高敏隆著 講談社

『ソロモンの指輪』翻訳でおなじみの筆者が、動物の体の仕組みを「文化」という視点で読み解く。動物世界への楽しい入門書であり、近代主義に浸った頭をリセットセットするにも絶好の書。パラダイム・チェンジによりいかなる世界が立ちのぼるか。著者の文章は、さきごろ某人気国大の人文系入試に採用されている。要チェック。



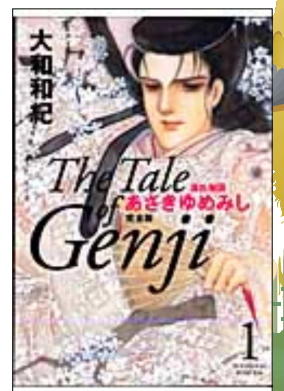
福地雄太 『甲子園だけが高校野球ではない』 岩崎夏海監 廣済堂出版



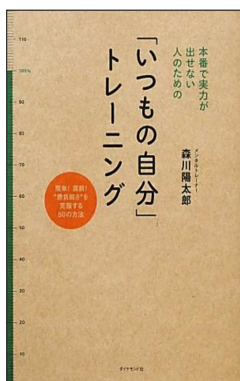
「もしドラ」でおなじみの岩崎氏による著書。テレビには映らない、地方大会で甲子園出場を目指す様々な立場の人間ドラマが描かれています。それはキャプテンだったり、補欠選手だったり、コーチだったり、家族だったり。勝つことではなく、勝つために行動することで生まれる人間同士の“絆”の大切さを感じました。

滑川 良子 『あさきゆめみし』 大和和紀著 講談社

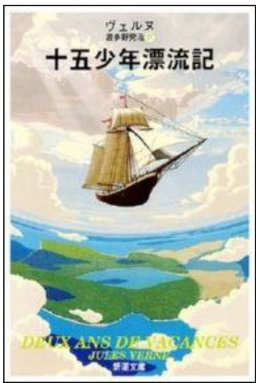
紫式部の源氏物語は、様々な人が、訳しています。この本は、漫画家の大和和紀さんが、10冊の単行本に描いたものです。源氏物語の入門として、気軽に読めます。絵は、少女漫画ですが、風景や建物や室内から、衣装などもビジュアルで見えるので、とてもイメージし易いです。受験にも役立つはず。是非読んでください。



萬場 努 『「いつもの自分」トレーニング』 森川陽太郎著 ダイヤモンド社

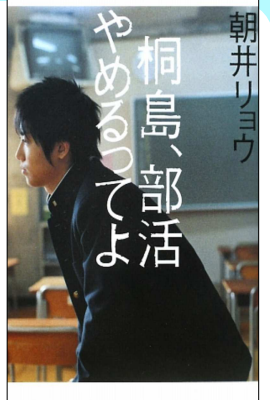


友人関係で悩んでいる人や部活動の試合で力を最大限発揮したいとおもっている人は是非読んでみてください。自分自身のコントロール方法や対処法を具体的に記してあります。読めばもしかしたら人生が変わるかも?!



木村 幹雄
『十五少年漂流記』
ジュール・ヴェルヌ著 新潮社

太宰治の本を一冊でも読んでいないと高校生じゃない、と思われていた私の高校時代はもう何十年前になるのか。さて、脳の柔らかい君の人生を豊かにするかもしれない一冊の本。「十五少年漂流記」はどうだろう。男ならいつか親に頼らず人生の荒波を航海していくものだが、それを自覚させ、その一歩を後押ししてくれる本になるだろう。



鈴木 辰也
『桐島、部活やめるってよ』
朝井リョウ著 集英社

この推薦本は、娘（大学3年生）から無断借用して読みました。主人公の桐島君は、最後まで登場せず、周りの生徒の話から彼の姿を想像させる不思議な物語です。彼が部活をやめることでの影響は、回り回って意外な方向へ進んでいきます。私の好きな展開です。

部活の大切さを考えている君に是非読んでほしいです。

磯崎 福久子
『都道府県の持ちかた』 バカリズム著 ポプラ社

生徒の皆さんは、自分が住んでいる日本の地理をどれくらい理解していますか。本書は、笑いながら日本の地理を学べる「新しい地図帳」です。各地の歴史や産業だけでなく、その形や特徴までもが分かり易く楽しく説明されています。興味をもった人には読んでみることをおすすめします。



宮本 大
『陽だまりの詩』 乙一著 講談社

死を悼む気持ちが生まれてようやく、心のない作り物の生命が本当に動き始めるという話。死を知ると同時に生を知ることでもある、そんな哀しい想いなど知らないままで、ずっといられば良かったのに。でも、だからこそ、ただ一緒に過ごすという日常が、とてもかけがえない存在であることもわかる心暖まる一冊。

※このお話は『ZOO』という文庫本の中に収録されています。



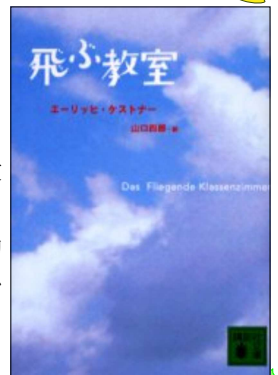
河原 仁
『日常にひそむ数理曲線 DVD-Book』
佐藤雅彦+ユーフラテス著
ポニーキャニオン



この本では、今まで数学で学んできた式や、これから学ぶ式であらわされる曲線が日常と密接に結びついている、ということがわかります。たとえばジェットコースターや高速道路の建設にも多くの関わりがあるんですよ！同研究室の「ピタゴラススイッチ」もおすすめです(こちらのほうが有名でしょうか?)

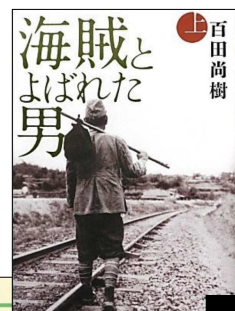
薄井 葉子
『飛ぶ教室』
エーリッヒ・ケストナー著 講談社

ドイツの高等中学を舞台に、寄宿舎で共同生活する生徒たちのお話です。5人の生徒を中心に、学校で起こるさまざまな事件を解決していきます。クリスマスシーズンの物語なので、これからの時期に読むのにもおすすめの1冊です。



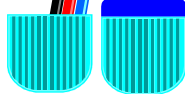
新刊のご案内

いろいろな新刊が入っています。冬休み、読んでみませんか？



図書館から貸出しについてお知らせです！

冬休みは、期間が短いので、通常通り1人2冊までの貸出しとなります。新学期になってから、またたくさん借りてくださいね。なお、3年生については、学年末試験後、自由登校になってしまうため、1月半ばで貸出し終了となります。どうぞご了承ください。



次号予告

今回は、第3学年を担当される先生方の推薦図書です。お楽しみに！